

令和5年度 施策評価シート

1. ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 における位置づけ

施策 体系	分 野	02 生きがい・文化・スポーツ ～うるおいのある豊かなまち～		
	施 策	05 生きがい ー市民のみんなで学ぶ、地域で学ぶを推進しますー		
重点プロジェクト		” オールふじみ野” まちづくりプロジェクト		
主 管 課	市民活動推進部 協働推進課	評価責任者	本橋 直人	
		評価日	令和6年6月1日	
関 連 課		学校教育課、社会教育課		
目 標		夢が広がり、生涯を通して学び続ける環境づくりの推進に向けて、多様なニーズを踏まえた市民の生きがい学習への参加機会の創出と支援を行うとともに学んだ経験を地域に還元する仕組みを構築します。		
施策目標の実現 に向けた取組		(1) 生きがい学習環境の整備・充実 ○市民大学ふじみ野をはじめとする様々な生きがい学習の環境整備を進めます。 ○各世代に応じた講座の開設など、市民のニーズに応じた学習メニューを充実させ、学習活動を支援します。 (2) 生きがい学習の地域還元 ○市民大学ふじみ野の修了生や生きがい学習ボランティア人材登録制度などを活用し、学びの成果を地域に還元する仕組みを構築します。		

2. 施策指標と達成状況

※網掛けの指標は前期重点プロジェクトに該当する指標です。

施策目標	指標1	指標名	生きがい学習受講生数					
		説明	生きがい学習まちづくり出前講座、子ども大学ふじみ野、生きがい学習ボランティア派遣による学習の参加者は、市民の生きがい学習を推進する指標となるため。					
		単位	人					
		年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	活動	目標値	360	380	410	440	470	500
		実績値	297	163	39	339	286	378
	指標2	指標名	市民大学ふじみ野の修了生の活動実績数					
		説明	市民大学ふじみ野を受講し、その知識や技術を活かして地域活動に参加した回数。受講後、学んだ経験を地域へ還元する指標となるため。（平成28年度からの実施事業。指標の数値は累計）					
		単位	回					
		年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	成果	目標値	20	30	45	60	80	100
		実績値	0	8	66	108	159	229
	指標3	指標名	生きがい学習ボランティアの活動実績数					
		説明	生きがい学習を支援するボランティアの活動実績数。市民による生きがい学習の機会を創出する指標となるため。（平成27年度の一部制度を改正。指標の数値は平成27年度からの累計）					
		単位	回					
		年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	活動	目標値	7	10	15	20	25	30
		実績値	9	11	11	13	18	24
	指標4	指標名						
		説明						
		単位						
		年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値						
		実績値						
	指標5	指標名						
		説明						
		単位						
		年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値						
		実績値						

3. 施策への投入コスト

(単位：千円)

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
支出	事務事業費	5,994	6,238	6,154	11,749	20,396	9,159
	人件費	12,712	12,367	6,850	9,221	10,675	10,855
収入	特定財源	166	136	83	173	163	168
	一般財源	18,540	18,469	12,921	20,797	30,908	19,846

4. 評価対象年度の施策実施内容

※網掛けの指標は前期重点プロジェクトに該当する取組です。

		実施内容	実施実績と効果	主な事務事業
取組①	子ども大学ふじみ野の開校	総合テーマ：共に生きる社会の理解 令和5年度のテーマ：つくる 対象：小学校4年生から6年生 実施日：令和5年9月23日、10月29日、11月19日	3つの講義を実施し、20人が参加した。テーマに沿った講義を、文京学院大学及び東入間青年会議所と協力し、実施した。受講者は各講義の実技を通して、つくるを体験した。	生きがい推進事業（一部）
取組②	市民大学ふじみ野の開催	地域での学びの促進と人材育成を目標に、NPOとの協働により市民大学ふじみ野において講座を開催した。前期・後期のレギュラー講座の他、大学や関係課との特別公開講座、また、市民が市民に対して教え・学ぶ、双方向の学びの枠組みである学び合い講座を実施した。	24講座を開催し、371人が参加した。身近な内容から専門的な内容まで幅広いジャンルを揃え、市民ニーズの高い講座を実施し、知の好循環の一助となった。	市民大学ふじみ野運営事業
取組③	生きがい学習ガイドブックの作成	令和4年度末から、生きがい学習ガイドブックに掲載する情報を公民館等の利用団体や各課・関連団体から集め、6月中旬に2,000部を発行し、市内各施設で配布をした。	サークル加入及び活動に関する問合せが176件あり、市民活動への参加に繋がった。生きがい学習まちづくり出前講座を12件実施し、市民の学習ニーズに応じた。生きがい学習ボランティアは6件の派遣を行い、市民が培った能力を地域に還元した。	生きがい推進事業（一部）
取組④				
取組⑤				

5. 評価

評価	
指標の達成状況	子ども大学ふじみ野は、市内の小学校4年生から6年生を対象に、「つくる」をテーマに文京学院大学教員による実技を伴う2講義と、東入間青年会議所による「東いるまん（肉まん）」づくりを実施した。様々な分野について自己を通して探求することができ、また、受講者同士で協力し成果物を仕上げることで、学校や学年にとらわれずに児童たちが交流を図ることができた。
行政資源の活用	市民大学ふじみ野は、市民で構成されているNPOに業務委託し、市民協働で運営をしている。市民大学ふじみ野では、「市民の学び 地域の学び 知の好循環」をテーマに、学びを地域への活動に繋げ、地域での活躍のきっかけとなる講座を実施してきた。講座は、レギュラー講座（前期・後期）、特別公開講座（文京学院大学、高齢福祉課との共催）、学び合い講座で構成される。レギュラー講座では、後期からサロン型式のタブレットを使用した講座を実施した。また、学び合い講座では実技を含む講座を実施し、定員を超える応募があった講座もあり、今後もニーズを踏まえた事業展開を継続して実施していく。
取組の有効性	市民が生きがい学習の情報を得る手段の一つとして、「生きがい学習ガイドブック」を発行し、多くの方に配布することができた。今後においても、より市民に活用していただくために、生きがい学習ガイドブックの存在の周知を図るとともに、活用しやすい紙面づくりに努めていく。
効果の得られている	

令和5年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		生きがい推進事業	前年度の方向性	
			継続	
重点プロジェクト		“オールふじみ野”まちづくりプロジェクト		
施策体系	分野	02 生きがい・文化・スポーツ ～うるおいのある豊かなまち～		
	施策	05 生きがい ー市民のみんなで学ぶ、地域で学ぶを推進しますー		
予算費目		一般会計 02総務費 01総務管理費 10コミュニティ活動促進費		
所管部課		市民活動推進部 協働推進課	評価責任者	星野 光
事務事業期間		平成27年度～	評価日	令和6年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		地方自治法、ふじみ野市生きがい学習推進委員会設置要綱、ふじみ野市生きがい学習推進計画審議会条例		
事務事業の内容	事務事業の目的	多くの市民に学ぶことの重要性や必要性を認識していただくとともに、生涯学び続けたいという意識を高め、学んだ知識を通じて地域で活躍できる人材の育成を図るため事業を展開する。		
	事務事業の経緯	生涯学習分野については従来の教育局にとらわれず、他の分野と有機的に連携した施策展開を行うため、平成27年度から市長部局に移管された。ふじみ野市で取り組む生涯学習推進体制を「生きがい学習」と称し、事務事業としての位置づけを行ったものである。平成29年度に市民カレッジ及び市民企画講座は、市民大学ふじみ野運営事業へ移管した。		
	事務事業の概要	①第2期生きがい学習推進計画の策定 ②生きがい学習まちづくり出前講座：行政の取組、情報発信の仕組の一環として実施 ③子ども大学ふじみ野：小学4～6年生を対象とし、学校で学べない専門的カリキュラムを実施 ④生きがい学習ボランティア人材登録制度：様々なボランティアを募るための登録制度を実施 ⑤生きがい学習ガイドブックの発行：サークル等、学びの情報提供の一環として年1回情報誌を発行		
	令和5年度の主な取組	①令和4年度から引き続き、第2期生きがい学習推進計画の策定を進めた。 ②生きがい学習まちづくり出前講座を12件実施した。 ③子ども大学ふじみ野を3日間開催し、20人が参加した。 ④生きがい学習ボランティアを6人派遣した。 ⑤令和5年6月に「ふじみ野市生きがい学習ガイドブック2023」を発行し、サークル加入等に関する問い合わせを176件受け、サークル加入の橋渡しをした。		

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】			令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 当初予算
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.53	0.56	0.56
		人件費	4,222	4,437	4,437
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	人件費計		4,222	4,437	4,437
事業費	報酬※		104	139	42
	賃金※		0	0	0
	需用費		114	123	201
	委託料		2,348	1,471	0
	使用料及び賃借料		0	0	0
	工事請負費		0	0	0
	負担金、補助及び交付金		80	80	80
	扶助費		0	0	0
	その他事業費※		78	52	69
支出合計			6,946	6,302	4,829
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
	一般財源		6,946	6,302	4,829
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)			61	55	41

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	生きがい学習受講生数		
	説明	事業目的に対する関心度や効果を反映するものとして、生きがい学習まちづくり出前講座、生きがい学習ボランティア派遣による学習、子ども大学ふじみ野の参加者数を市民の生きがい学習を推進する指標とする。		
活動	単位	人		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	470	500	380
	実績値	286	378	
指標 2	指標名	生きがい学習まちづくり出前講座の実施メニュー数		
	説明	情報発信の仕組みづくりや地域社会との情報交換の仕組みづくりの一環として事業目的の効果度が図れるため、出前講座の実施メニュー数を指標とする。		
活動	単位	件		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	35	35	35
	実績値	27	27	
指標 3	指標名	生きがい学習ボランティアの活動実績数		
	説明	市民による生きがい学習の機会を創出するものとして、生きがい学習を支援するボランティアの活動実績数を指標とする。(指標の数値は制度を一部改正した平成27年度からの累計)		
成果	単位	回		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	25	30	35
	実績値	18	24	

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	【実施内容】
	①令和5年度は生きがい学習推進委員会会議及び生きがい学習推進計画審議会会議を各4回実施、パブリック・コメントの実施（期間：12月20日～1月18日 意見0件）、市長への答申（2月19日）を行った。 ②生きがい学習まちづくり出前講座 メニュー数27件、申請件数12件、実施件数12件、参加者数209人 ③子ども大学ふじみ野 文京学院大学、東入間青年会議所、ふじみ野市で実行委員会を組織している。令和5年度は3日間（9月23日、10月29日、11月19日）開講し、20人が受講した。文京学院大学による実技を交えた「はてな学」「生き方学」の2講義、「ふるさと学」では東入間青年会議所による「東いるまんを作ろう」を実施した。 ・総合テーマ「共に生きる社会の理解」 ・令和5年度のテーマ「つくる」 ④生きがい学習ボランティア登録制度 ・登録ボランティア数 団体2団体、個人33人 ・講座申請件数8件、実施件数6件 ・市民大学ふじみ野「学び合い講座」の講師として3人が活躍した。 ⑤ふじみ野市生きがい学習ガイドブック2023 6月中旬に2,000部を発行し、市内公共施設に配架した。市HPに電子データを掲載した。また、掲載されているサークル・団体情報については、176件の仲介を行った。 【効果】 生きがい学習ガイドブック2023の発行や各種事業の実施により、学びの情報を提供し、市民の生きがい学習意識の向上を図ることができた。

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	市民の方々が生涯を通じて学習していきたいという意識を高め、地域で活躍できる学びを推進するため、現在の社会情勢や市民アンケートの結果を加味し、「第2期ふじみ野市生きがい学習推進計画」を策定した。引き続き、市民一人ひとりが気軽に学びに取り組めるような環境づくりを進めていく。
中長期的方向性	
継続	

令和5年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		市民大学ふじみ野運営事業		前年度の方向性	
				継続	
重点プロジェクト		"オールふじみ野"まちづくりプロジェクト			
施策 体系	分野	02 生きがい・文化・スポーツ ～うるおいのある豊かなまち～			
	施策	05 生きがい ー市民のみんなで学ぶ、地域で学ぶを推進しますー			
予算費目		一般会計 02総務費 01総務管理費 10コミュニティ活動促進費			
所管部課		市民活動推進部 協働推進課		評価責任者	星野 光
事務事業期間		平成28年度～		評価日	令和6年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等					
事務 事業 の 内 容	事務事業の 目的	「市民の学び 地域の学び 知の好循環」を基本理念に、市民による市民のための学びの場を提供する。 「市民」「地域」「市民大学ふじみ野」が連携を図り、有機的に結合することによって、地域の課題解決 方策の提案や実践していく人材育成を行い、もって「知の好循環」を目指す。			
	事務事業の 経緯	市民と地域と行政が連携しながら、各々の学習内容を地域活動によって還元することを原則に、更なる学 びの推進と地域力の向上に資するとともに、地域課題の解決方法の提案、実践する人材を育成しながら 「知の好循環」を目指すことを目的に、平成28年度に開講し、令和5年度で8年目を迎えた。			
	事務事業の 概要	市民大学ふじみ野の実施主体は市であるが、市民のニーズを的確に把握し、迅速かつ柔軟性のある運営を 推進するため、平成28年1月に設立された特定非営利活動法人ふじみ野みらいに講座等の企画運営や市民 大学ふじみ野の事務局運営を委託形式により行っている。 市民大学ふじみ野の理念に沿った専門性の高い講座から人気の講座までを実施する「レギュラー講座」、 市民が市民に対して教え学ぶ、双方向の学びの枠組みである「学び合い講座」、会場を講義室外に移し、 市民大学ふじみ野の周知を図る「特別公開講座」で構成されている。			
	令和5年度の 主な取組	・レギュラー講座：専門性の高い講座から人気の講座までを15講座開講した。 ・学び合い講座：令和4年度学び合い講座講師募集説明会の参加者より提案された企画講座7件を実施し た。 ・特別公開講座は、高齢福祉課及び文京学院大学と共催し、2講座を実施した。			

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】			令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 当初予算
人 件 費	正規職員	従事人数(人)	0.42	0.42	0.42
		人件費	3,346	3,328	3,328
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
人件費計			3,346	3,328	3,328
事 業 費	報酬※		0	0	0
	賃金※		0	0	0
	需用費		0	0	0
	委託料		3,553	3,560	3,766
	使用料及び賃借料		0	0	0
	工事請負費		0	0	0
	負担金、補助及び交付金		0	0	0
	扶助費		0	0	0
	その他事業費※		0	0	0
支出合計			6,899	6,888	7,094
財 源 内 訳	特定 財 源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	136	131	180
	一般財源		6,763	6,757	6,914
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)			59	59	59

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	市民大学ふじみ野講座数		
	説明	事業の目的に掲げる人材育成を充実させていく取組として、市民大学ふじみ野で実施されるコースの数(学び合い講座、特別公開講座を含む)を指標とする。		
活動	単位	講座		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	25	25	25
	実績値	21	24	
指標 2	指標名	市民大学ふじみ野受講者数		
	説明	事業目的に対する関心度や事業効果を反映するものとして、市民大学ふじみ野で実施する各種講座の受講者数を指標とする。平成30年度より特別公開講座(旧市民カレッジ)及び学び合い講座(旧市民企画講座)を受講者数に追加する。		
成果	単位	人		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	340	380	380
	実績値	350	371	
指標 3	指標名	市民大学ふじみ野の修了生の活動実績数		
	説明	受講後に学んだ経験を地域へ還元するものとして、市民大学ふじみ野を受講し、その知識や技術を活かして地域活動に参加した回数を指標とする。(平成28年度から事業実施。指標の数値は累計)		
成果	単位	回		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	80	100	240
	実績値	159	229	

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の実施内容・効果	【実施内容】 ①レギュラー講座…市民大学の理念に沿った専門性の高い講座や人気の講座等、基本となる講座。 ・前期：8講座(受講者83人)・後期：7講座(受講者72人) 絵画実技講座や歴史の講座について、多くの申込みがあった。参加者同士で意見を交わし高め合うサロン形式の「デジタルひろば」を新たに始めた。 ②学び合い講座…市民が市民に対して教え学ぶ、双方向の学びの枠組み。 ・7講座(受講者75人) 講座の半数以上定員を超える申込みがあった。 ③特別公開講座(高齢福祉課共催) 令和5年4月22日「ぼけますから、よろしくお願いします。～おかえりお母さん～」 映画・信友直子監督 講演会 参加者125人 ④特別公開講座(文京学院大学共催) ・1日目(令和5年9月7日)「子ども期の運動習慣が成人期以降の健康に与える影響」参加者16人 青木通准教授(人間学部人間福祉学科) ・2日目(令和5年9月8日)「こどもの成長痛とその対処方法」 福井勉学長・教授(保健医療技術学部理学療法学科)※台風のため、中止 文京学院大学特別講座は2日間の日程で実施予定だったが、台風の接近に伴い市内小学校が休校となったことから、2日目の日程を中止とし、1日開催となった。 ⑤学び合い講座の講師公募説明会 令和5年度は募集時期を見直したため実施しなかった。令和6年度に募集及び実施に向け調整中。 【効果】 市民ニーズに合った講座を提供し、「知の好循環」の一助になったと考えられる。
--------------	--

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	市民ニーズに合った講座や人気のある講座を展開できているが、カリキュラムの固定化が見受けられることから、学び合い講座の講師募集説明会をきっかけに、多種多様な講座展開に努める。引き続き、NPOと連携し、市民大学ふじみ野の目的である「市民力・地域力の向上」を目指し、人材育成や地域還元が図れる講座、市民の学習意欲を刺激する魅力のある講座を実施していく。
中長期的方向性	
継続	

令和5年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		市民憩の森管理運営事業		前年度の方向性	
				継続	
重点プロジェクト					
施策 体系	分野	02 生きがい・文化・スポーツ ～うるおいのある豊かなまち～			
	施策	05 生きがい ー市民のみんなで学ぶ、地域で学ぶを推進しますー			
予算費目		一般会計 02総務費 01総務管理費 11コミュニティ施設費			
所管部課		市民活動推進部 協働推進課		評価責任者	星野 光
事務事業期間		平成25年度～		評価日	令和6年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		ふじみ野市市民憩の森条例、ふじみ野市市民憩の森条例施行規則			
事務事業の内容	事務事業の 目的	市民憩の森において、自然とのふれあいを通して、青少年の野外体験活動、地域コミュニティ及び異世代間の市民交流の推進を図る。			
	事務事業の 経緯	平成25年3月をもって土地返還した鶴ヶ岡青少年野外活動ひろばの代替施設として、聖路加国際病院が市内に所有する山林を「使用貸借契約」により借受け、「ふじみ野市市民憩の森」を平成25年7月1日（条例施行）に設置した（平成25年7月16日から供用開始）。			
	事務事業の 概要	①野外活動広場・レクリエーション広場の貸出業務 ②施設の維持管理			
	令和5年度の 主な取組	・ 利用者の安心安全を確保するため、適宜倒木及び折れ枝の可能性のある樹木を伐採又は剪定を行った。 ・ 屋外コンセント盤ボックス、門扉修繕を実施した。 ・ 景観を保持するため、保全ゾーンに乱雑に放置されていた枝や幹の処分を実施した。			

2. 事務事業費・人件費

（単位：千円）

【支出】			令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 当初予算
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.39	0.39	0.39
		人件費	3,107	3,090	3,090
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
人件費計			3,107	3,090	3,090
事業費	報酬※		0	0	0
	賃金※		0	0	0
	需用費		281	305	273
	委託料		13,834	3,427	3,025
	使用料及び賃借料		0	0	0
	工事請負費		0	0	0
	負担金、補助及び交付金		0	0	0
	扶助費		0	0	0
	その他事業費※		3	2	4
支出合計			17,225	6,824	6,392
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	27	37	72
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
	一般財源		17,198	6,787	6,320
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)			151	59	54

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	市民憩の森利用登録団体数		
	説明	3月末日時点の公共施設予約システムの利用登録団体数を基礎指標として、活動指標に設定する。		
活動	単位	団体		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	100	110	110
	実績値	101	110	
指標 2	指標名	市民憩の森開場日数		
	説明	条例に基づき、安全で適正に開館した日数を活動指標として設定する。令和4年度はナラ枯れ被害木伐採、令和5年度は倒木伐採のため休園とした。		
活動	単位	日		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	344	345	343
	実績値	121	317	
指標 3	指標名	市民憩の森利用者数		
	説明	施設の利用数を基礎指標として、成果指標に設定する。		
成果	単位	人		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	110,000	110,000	8,000
	実績値	3,336	6,133	

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の実施内容・効果	【実施内容】 ◎施設の樹木管理の取組 ・令和5年度当初は施設内に39本の樹木が存在していたが、降雪等により倒木の恐れがある老木を5本伐採した。 ・景観を保持するため、保全ゾーンに乱雑に放置されていた枝や幹の処分を実施した。 ◎施設の修繕 ・野外活動広場内のコンセント盤ボックスが破損したため、交換修繕を行った。 ・門扉の一部が破損し、錆が目立っていたため、修繕を実施した。 【効果】 利用者が安全に施設利用ができ、市民のコミュニティ活動促進の一助になったと考えられる。 ◎利用率 レクリエーション広場：65%（休園期間を除く） 野外活動広場：12%（休園期間を除く）
--------------	---

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	利用者の安心・安全への取組として、適切な樹木の管理を実施する必要がある。
中長期的方向性	
継続	